

●今月の発言

芸団協 編集/発行

『芸術文化にかかわる法制<資料集>』より

ニューヨーク州統一法典 芸術文化関連法:B:芸術の振興

第9条 ニューヨーク州演劇協会

【01項 立法事実と政策の提言】より

1. 芸術は、我々の学校および社会における物事に興味を起こさせる力である。芸術は、より充実した人生を実現するための感性を磨く経験であり、読み書きや算数の技術を補完するものである。
2. 創作芸術を教育体制という枠組みの中での児童及び青少年のために用いると、あらゆる課目における学生の達成度が向上し、情操が発達することが証明されてきた。
3. 教師は、芸術や演劇的技術を用いて、児童や青少年に接する経験と、彼らと共に作業を行う経験を積むべきであるとともに、コミュニティの文化的資源や人的資源を活用する心構えを持つべきである。

州議会は、さらに、芸術をわが州の児童及び青少年に対する教育に導入することに貢献する州立の演劇協会があつてしかるべきだと認める。

さらに、そのような州立の演劇協会は、ニューヨーク州における児童のためのモデルとなる演劇・教育プログラムを具現化すべきであり、また児童及び青少年のための演劇と教育の維持・発展に関するニューヨーク州市民の関わりを象徴する存在たるべきであるとともに、一般大衆が利用できるプログラムも作成すべきである。



ホールも子ども劇場
はじめて以来の
1000名を超える観客
(800名)と賞のみな
感動をおくれた
左でした。

Teens Art Festival 告発

内子ども 劇場 演劇 植村 茂樹 15 才
E-mail: ultra.soul.ki@hotmail.com
E-mail: unfinished39@hotmail.com

かこしまブロック

〈舞台劇〉
劇団まぼろし座公演
「俺タチing!」

「とリアス」お疲れさまでした。
このおかげで、僕に芸術祭典の話がこぼれこんでくる。
去年は、「大人になれたかたまたまに」を、
して、今年も。

ホームページ
http://www7.
plala.or.jp/
maburosi/
(090-980-2222)



Teens Art Festival

さつまブロック

〈構成パフォーマンス〉
THE ★Unfinished Children
(未完成な子どもたち)

出させてもらい、
とてもいい経験を積むことができました。
初めは、恐くて、物々しいませんでした。
でも、会場に入ると一気にハズがよがり。
本番に合わせてことができました。



1~3月の鹿児島のつこま

ただでさえ、子ども劇場に入っていて、普通の人たちより
生の舞台に触れることが多いいのに。
今度は、自分たちが舞台に立つという。めまに経験できない事
ないけれど、いいことか、うれしいです。

- 1/15 かこしまブロック 祭典オープニング国際シンポジウム
- 1/12-14 アートキャンプ
- 2/9 わくわくサタデー 子ども文化の里
- 2/12 ~5/30 第14回子ども芸術祭典
- * トム・ソーヤの森で遊ぼう会
- 1/27 たこ作り・たこあげ大会
- * こども文化の里 里人募集中! 年間をとおして の自然体験・生活体験の場として、1家族3000円です。
- 1月 たこ作り
- 2月 じゃがいもろえ
- 3月 春をたべよう
- 4月 千年の森探検
- 5月 じゃがいも収穫
- 6月 ビーナッツろえ
- 7月 からいもろえ
- 8月 川遊び
- 9月 千年の森 くいひろい
- 10月 ビーナッツ収穫
- 11月 からいも収穫 収穫祭

今になって、初めから、ふり返ってみると、とても短く感じます。
でも、その短い間に、ゼロからなやめとんてん創り上げて
本番前日になりました。

通し練習も、普通の練習とは、おたく違う リハーサル。

実は、本番より、リハーサルの方が緊張(ていねいな)です。

本番の朝は、少し体調が悪く、「大丈夫かな?」と心配した。
でも、朝練習が始まると、緊張をまぎらすことができました。

そして、30分前、ほどよいおれと緊張の中で、練習を思い出した。
10月27日の事が、不思議に思い出された。

でも、舞台に立つ30秒前には、おれ、舞台に立ちました。

あの、何と云えない楽しさを僕は、もう一度味わいたいです。

2年後、もう一度、あの舞台に立ちたいです。(できれば「259-279...」
とか、一言でいいです)

『楽しかった!』って、僕たちは Unfinished Children
(未完成な子どもたち)です。

福岡県

自分への自信をとりもどすところ

子ども塾 福岡東部子ども劇場



●福岡東部子ども劇場には、小学生から高校生までの子どもたちの異年齢集団・ひまわり団がある。この活動で大事にしていることは、平和を守る力を育てること。関わるおとなと青年、子どもの共育ちの関係づくりは、集団で芝居をみたりアートワークショップ（作品制作や美術館巡りなど）をしたり、地域で遊んで外の空気に触れ感じる心を育てるところから始まる。その中で、毎年取りくまれるひまわり団のキャンプは“おもやい（共同作業）”。何かをするために集まるのではなく、基本的な生活習慣を身につけることを大切にしている。

いろいろな活動を通して子どもたちの基礎学力の低下を感じ、学ぶこと知ることの喜びを子どもたちが感じ取り、自分への自信を取り戻してほしいと「子ども塾」がつけられた。この塾にはひまわり団のほとんどの子どもたちが集い、青年たちが小学1年生のドリルから教え、読み書き・算数など学習の基礎から学んでい

る。塾で学校の宿題をする子もいるし、ずっとマンガを読んでいる子もいる。学校であったことを青年とおしゃべりしたり……。勉強の後、本の読み聞かせが終わると小学生は帰り、7時からは中高生中心の時間になる。子どもたちのなかには、不登校で学校＝子ども塾という子どももいる。子どもたちは、子ども塾の空間を思い思いに過ごしている。塾のある日は、青年や子どもたちのためにお母さんたちがおやつを用意してくれるが、この頃は自分たちも準備や盛りつけ、後片づけを分担するようになった。子ども塾では、学習能力だけではなく、集団活動を通して生活していく力を子どもたちがつけている。今では塾の親の会ができ、定期的に集まるようになった。集団活動の乏しさは、おとなも子どももかわらない。ようやく子ども活動を支援する親の群れができ、学び始めている。信頼関係のぶつかり合いから、信頼関係の築きへ。かつ藤の繰り返しのなかから活動を創りあっている。

見た人が元気になる!! ロックソーラン節

戸畑子ども劇場



●3年前の高学年例会、伊藤多喜雄コンサートで初めて「ロックソーラン節」に出会い感動。昨年、南中ソーランの原型である映画「学び座」を高学年例会として実現した。それを通して子どもたちの中から是非踊りたいという強い思いが湧き、戸畑区の最大のまつり「しょうぶまつり」のステージに出場しようということになった。

こうして、ソーラン踊り隊が結成された。しょうぶまつりでの踊りが大好評でその後いろいろな地域からお誘いがあり、今年の夏休みは大忙し。でも踊りを見た人たちから「見ていると、元気になる」と感想をもらい、ますますパワー

アップしてきた。この秋には北九州博覧祭、「戸畑区の日」にも出演し大好評だった。子どもは4才から中1まで、それに大人も加えたメンバーみんなのイキイキした表情と、力が湧いてくる踊り、音楽、それが地域の人たちの心を動かしたようだ。「文化は心を耕す」ってこのことだなと実感した。このロックソーラン踊り隊の活躍で、子ども劇場の名前は区役所で、公民館で、地域の自治会でうなぎのぼりの評判だ。

どこかで見かけたら「ソーラン」「ソーラン」「どっこいしょ、どっこいしょ」の掛け声をかけて下さいね。

ロバの学校

IN 綾

2001年9月22日～23日

県内50名の親子で参加

宮崎県内から50名のおやこが参加。1泊2日の短い時間でしたが、ゆったりたっぷり過ごす事ができました。今回は、参加者が、残っていた感想を紹介します。

◆
 ・おやこ劇場に入会して始めて参加しました。今までは、休みという3才と4才(少し前まで2才と3才)の子どもを連れてどこいこう?……人の中に入ると迷惑をかけるし……とブルーになったりした事もあります。でも、ここでは、大きい子どもたちが遊んでくれたりめんどうをみてくれたり、大人の人たちに、抱っこされたり親子ともリラックスして楽しめました。自然の中で工夫して、皆で楽しく遊ぶということに、目を輝かせている子どもをみるのも嬉しかったし、何よりも自分が夢中になって遊んでおなかをいっぱいすかせて、大きく呼吸ができた事はとてもいい刺激になりました。これからは、子どもと遊ぶ事をもっと楽しめると思います。(杉田・)

・とっても楽しかった。友だちも増えた。また、来年も企画して。あと、一週間泊まりたかった。おいしかった、ご飯。(明華中1)

・友だちがたくさんできたり、朝のお散歩をしたり、自由な時間があった。夢のような事ができました。また、キャンプがあったら参加したい。(星七小3)

・久しぶりに、ゆったりとした時間が過ごせました。楽器やお面作りは、我を忘れて夢中になってしまいました。ロバの音楽は、心がやすらぎ、トーナードナの音楽会がとても楽しみです。(山下・)



・ぼくは、友だちができて楽しかった。今日作った楽器を自慢します。(大貴小3)

・夢みtainな時間と空間でした。もう少し自然と仲良くしたかった。お散歩をもっとゆっくりしたかったです。楽器は作ったらすぐ演奏できて素晴らしい!お面作りも楽しくまた作りたいです。自分たちの劇場でも企画して、子どもたちといっぱい遊びたいです。(浅香)

・僕は、疲れたけど楽しかった。ロバの音楽座のおじさんたちは、見たこともない楽器を演奏してくれました。カズーを作った。音が鳴って、嬉しかった。(慎也中2)



・カズーを作ったのが一番おもしろかったですね。私は小学校で3年生を教えているんですが、「これは、使えるぞ!」と思いました。「作って遊ぶ」そして次は、「お面を

作って変身」さらに「変身して遊ぶ」二日間の流れがずっと続いていたのがすごいと思いました。さらに、その流れに『ドローン』というテーマが流れていて、音の深みも感じることができました。音楽はとても好きなのですが、楽器が苦手でいつも二の足をふんでるんですが、今回は、そんな事関係なく心の底から楽しめた事が嬉しかったです。次の機会もまた参加したい。もうちょっとお父さん達もたくさん来ればいいのにな～

(瀬之口

・)

・散歩の時の秋のドローンがいい音でした。始めてカズーを作って、ピアノとか別に弾けなくても自分の声だけで演奏できるからすごいな一と思った。(裕貴小6)



・一泊二日の中に たっぶりの内容でしたけど何だか心がせかせかせず、穏やかになれたのが不思議です。がりゅうさん てっせいさんお二人の、何だか人を和ませて下さるようなことばの調子。あちこちに散りばめられた音楽のおかげ そして、何よりここ賢治の学校をとりまく素敵な自然に包まれた安心感からなのでしょう。

3才の息子連れではありましたが、ワークにも全て参加でき、子どもたちと一緒に、ああかなこうかなと物を作りそれで音楽が奏でられとても、嬉しく思います。娘二人

もそれぞれに作った楽器を世界で一つしかないもの(宝)として感じているようです。上手(うまい)や下手(へた)という評価の場がどこにもなかったのも、どれも一番。それぞれがそれぞれに、とても大切なものになっていったのかな……と思います。(土井・)



ロバの学校 時間割

22日

1時間目 オリエンテーション

2時間目 カズーを作ろう

〈休み時間〉

3時間目 歌ってみよう

4時間目 カズーを仕上げよう

5時間目 夕暮れドローン捜し

〈給食 夕食〉

課外授業 ミニコンサート

星のドローン捜し

23日 バグパイプの目覚ましの音

朝のドローン捜し

1時間目 歌ってみよう

〈休み時間〉

2時間目 お面を作ろう

3時間目 コンサート

〈給食 昼食〉

4時間目 歌ってみよう



“アフタフ・バーバン”

劇・イメージ・表現あそび
遊ぶ・あそぶ・あそびって!!

子どもたちが豊かに遊ぶことは、人間らしく育っているということだとしたら、30年間、大人が子どものあそびに関わった結果は？私たち大人は“子どものあそびを！”と叫びながら、一方では子どもたちのあそび心を閉ざしてきたのではないのでしょうか？



昨今の子どもたちからのSOSは、私たち大人に「本当に大事にしなければならないものはなにか」ということを突きつけています。ありのままの自分を受け入れ、表現しあい、違うからぶつかりあい、でも認め合い、新しいルールを発見しイメージを共有しながらあそぶ。

あそび心のとびらをひらこう！

県内5ヶ所10ステージのとりのくみでした。自分を受け入れてくれる場！が、こんなに楽しいんだと実感することができました。

【参加者の感想より】

- ★「音」から想像してお話をつくるのはむずかしいけれど楽しいです。自分たちで作るのも、他のグループのおしばいを見るのもおもしろい。工夫すれば、いろいろなお話ができます。またきっと、表現で遊びたいと思います。(小5)
- ★かえってから、かぞくでにんじゃごっこをしました。(7才)
- ★学校ではドッジやケイドロとか運動とかが多いので、こんな活動はめったにしないので、とても楽しかったです。(小4)
- ★普段たまったストレス発散!!とばかりに自分を出していきました。いえ、自分を表現する場所になったんですね。何がおこってもいいんだ!! 恥ずかしくないよ、楽しむんだって身体を使ってなんて！それができる場所でした。(おとな)
- ★新聞紙やシートやビニールひも、ありふれたものだけで、どんどんあそびがひろがっていきます。やきいも(新聞だけ)をいっぱいたべて、おなかがいっぱいになって、こどもたちはそれを大事そうに袋につめて持っかえってゆく。イメージする力の豊かさ、大切さを感じました。(おとな)

11/21日 大分市「忍者まち修行」下見 夜)高校生・青年 黒マント団打合せ

22日 大分市「忍者まち修行」おとなスタッフ ワークショップ

夜)小高学年対象「とびらよひらけ」

23日 日田市 幼児親子対象「チチンブイ おおきくなあれ」

23日 別府市 小学生対象「とびらよひらけ」

24日 佐伯市 幼児対象「忍者修行 室内編」

24日 大分市 おとな対象「とびらよひらけ」

25日 大分市 小学生対象「忍者まち修行」

27日 大分市 幼児親子対象「チチンブイ おおきくなあれ」(3-4才と5-6才)

28日 中津市 おとな対象「とびらよひらけ」 夜)小学生対象「とびらよひらけ」



大分県子ども劇場連絡会

ながさき子どもネット 2001フォーラム おわる



♪ 遠くない星や宇宙の小さくて大きなこの場所に
ボクたちのボクたちらしさがたくさんいのちとつながって
ともに生きていける道を ボクたちはさがしつづける

★オープニング：子ども合唱
子どもの権利条約10周年記念
合唱組曲「ボクたちのさがしもの」

★大田堯先生講演
「子どもと大人がともに生きるために
——かかわりあいの知恵をもとめて」

★子どもとシンポジウム
生活美百科展



★午後のシンポでは、中・高校生の参加による意見発表、面白パネルの熱演で、子どもや会場の参加者と意見交換する楽しい試みの場となりました。

<感想より>

- ・「違いを受け入れる」ということはいつもわかっていながら、自分の中で課題。でもその「違い」が命の特徴・根源というお話に感銘した。(保育士)
- ・「みんな不完全なんだという認識。それが民主主義につながる。」こんな風にとらえたのは初めて。来て良かった。(39才女)
- ・教育は「教える」でなく「ひきだす」…気持ちが軽くなった。明日、子どもたちの目の輝きがいとおしく思える気がする。自分の不完全さを忘れず。(29才女教師)

先日12月9日(日)、ながさき子どもネットの「フォーラム」が開かれ、中・高校生を含む約300名の参加がありました。今年83歳になられた大田先生の、グローバルでスケールの大きい、それでいてとても新鮮で身近に実感できるお話に力をいただいたつどいでした。

<講演ノートより>

- ・「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の中には平和のとりでを築かなければならない。」(ユネスコ)
- ・1世帯1ドル以下でくらす人、世界に8億人。
- ・豊かな国の飢え。マネー社会がうみだす孤独化現象
- ・あそびの喪失の問題
(あそびを通して人間も人間となる。人間性の根源)
- ・「センスオブワンダー」(おどろきの感性)、わかちあう心は、人間がバラバラの中では育ちにくい。子ども自身のたくらみ・企ての中で自然に獲得していくもの。やらせや疑似体験でなく、直接的な生身との接触が大事。
- ・思春期はあらゆる動物の最大の危機的時期。自立の時。自分への手応えが要る。他者の鏡に映る自分の影を寄せ集めて自分を見出す。…他者とのかかわりが少ない中、この「自分をつかみどる」とこと難しい時代。
- ・“めあてのない欲求不満”、自分行方不明、ムカムカ現象
「動機のない犯罪」の増加、自殺者の増大…
- ・「バラバラな孤独」な時代の危険性…なにか強いものに頼りたい…古い体質が便乗してくる危険性
- ・子どもの問題は、危機管理、管理教育では解決しない
- ・子どもの権利条約の根本精神＝「参加の原理」
①子どもの声に耳を傾ける ②大人がどう変わったらいいかという反省 ③子どもの知恵を借り参加してもらう
- ・豊かなこの国で、子どもはみんな「失業者」あてにされていない。幼い頃から子どもの出番、役割。
- ・『ちがいを受け入れる』ことがかかわりあいの知恵。
ちがいは命の特徴。…<基本的人権>
- ・人間の不完全性の認識。子どもの前で完全を装うのではなく、不完全なもの同士が知恵を寄せ合い、かかわりあって、一緒になって結論を出す。<民主主義>

◆助成金獲得へ、強力に動き出す。

沖縄県には、沖縄な子ども劇場がひとつだけ貴重な存在として活動している。しかし、子どもは、県内くまなく地域に住んでいる。島もいっぱいあり、そこにも子どもたちはいる。子ども劇場でやっていることをもっと拡げたい。たくさん子どもたちが待っているような使命感に燃え、助成金獲得へ動き出した。今まで会費を出せる人が出し合い出来ることをやってきたが、これからは、やれることを実現するため、拡げるためお金をどうつくろうかという発想に生まれ変わり、助成金交付申請書づくりに挑戦、挑戦、そして挑戦、のくりかえしだ。すぐに実現はしないが、要領もよくなり、少しずつ実現してきている。お金の心配なくゆとりをもっておもしろい企画にも挑戦出来ている。

◆那覇市教育委員会主催「セロ弾きのゴーシュ」(人形劇団クラルテ)大成功に終わる

二年に一度実施される那覇市教育委員会主催子ども芸術劇場に、人形劇団クラルテの「セロ弾きのゴーシュ」を提案、子ども達のオーケストラ「アーク・ジュニアアンサンブル」の協力を得て12月9日(日)那覇市民会館大ホールで2ステージの公演を行った。

当日の会場入り口は最後尾がわからぬほどの長蛇の列。子ども劇場のお母さん達は、緑の下力持ち。小夜食作ったり、記念品作ったり、もぎり、受付、会場係、駐車場係など、大忙しの日であった。人形たちはもちろん、小学3年生から、大学生までのジュニアオーケストラの生演奏がどんなに沖縄の子ども達の心に響いたことか・・・『セロ弾きのゴーシュ』を鑑賞した子にも参加した子にも素敵なプレゼントした気分である。沖縄な子ども劇場にとって、企画の出発点からのこのような形の委託は初めてである。本当に試行錯誤の蛇行運転であったが、実にあたたかく素晴らしいステージが生まれた事を喜ぶたい。これからも、行政や他団体とのつながりを大切に謙虚に歩んでいきたい。



ゆめ基金助成事業 — 本との出会い みよう・きこう・ひろがるう —

◆「松居友さん講演会と川端誠さんとの開き読み大会」

12月22日23日と二日間「絵本ワールドinおきなわ」(主催「絵本ワールドinおきなわ」実行委員会)が行われる。沖縄県子ども劇場連絡会としては、この「絵本ワールドinおきなわ」のプレ企画として、平成十三年度子どもゆめ基金の助成を受けて絵本作家松居友さんの講演会を沖縄市くすぬち平和文化館と、那覇市沖縄県立図書館で、又、絵本作家川端誠さんを囲んでの開き読み大会を同じく沖縄市くすぬち平和文化館と、那覇市小椋南公民館で開催した。

「絵本は、愛の体験」というテーマでお話しして下さった松居友さん、すべての若いお母さん達に、聞いてほしい!! 世代を重ねて、生きる力になるお話しであった。又、川端誠さんを囲んでの開き読み大会は、各会場たくさんのお母さん達がそれぞれ本を持ち寄り人前で表現体験した。読み聞かせ、読み語り、見せ聞かせ、開き読み・・・いろいろな言い方でそれぞれの地域や学校で実践しているが、こういうことは、「愛そのもの」という事を実感せずにはられない。又、「このような企画は実に楽しく便器用になった。是非全国に紹介したい」と、川端氏の談。

師走の慌ただしい中、子ども劇場の枠を超え、地域の読み聞かせサークルや、図書館関係の人、大学生など各会場大勢の参加者でうまり・・・思いがけない出会いもたくさん生まれた。そして、やはり、子ども劇場を必要としている人がいっぱいいるんだな」って、とても強く感じる事ができた。

ずっとやりたかったと思っていた県内53市町村島に、子ども劇場のご案内パンフや、この企画のチラシなどを、ゆめ基金より配布することができた。そして、そのことが少し実を結ぼうとしている。沖縄県って広いな♫が実感。そして、子ども劇場運動が求められてるって実感! (鹿嶋文子)



こどもゆめ講座

開催予定

<2001.9~2002.8>

100回

子どもたちが、生活している地域で楽しく元気に活動できるようになることが、「こどもゆめ講座」の目的です。子ども自身が自分を表現できる居場所づくりや、ワクワク、ドキドキするような体験の機会をつくることが求められています。

この講座は、子どもの活動を応援し、広げていくための会を開いていこうというものです。

- ・子ども活動
- ・子育て講演会
- ・ワークショップ
- ・子育て相談会 など

地域の具体的な活動を情報公開し、お互い研鑽し合うとともに、地域の子ども活動が、継続、発展していくことを願っています。このことを社会へアピールし、支援にもつなげていきます。

- ・クリスマス会・お菓子教室
- ・もちつき会
- ・紙飛行機大会
- ・紙芝居
- ・人形劇・読み聞かせ
- ・芋掘り（苗植え～草取り）
- ・…etc.

12月現在の実施状況

大募集!
 きみの描いた絵が
 子どもげきょう会員証のカードの
 デザインになる!!

熊本市子ども劇場
 メンバースカード(会員証)とは
 ○子ども劇場の会員である 証

- ・カードをみせると、県内の映画館など、料金のおひびきがあるーがしー
- ・そのほか、1313の特典あり!!
- ・平成14年、はじめに、会員全員に発行予定

ただ今、子ども劇場メンバースカードを作成中!!

おひびきととも
 会員は1313あり!!

ガ。会員どす

X-バース
 カード

しあつて
 たそう!!

【佐賀子ども劇場】

仮装パーティで創設30周年を祝う



佐賀子ども劇場30周年を記念するパーティを秋晴れの11月24日、佐賀市文化会館イベントホールで開きました。お客様や子ども劇場の先輩達も含めて150名が集いました。参加者は「白雪姫」や「不思議のアリス」など思い思いに変身「千と千尋の神隠し」の格好で駆け付けてくれた県内の他劇場もあり賑やかな仮装パーティでした。

新しい世紀に区切りの30周年を迎え、さらなる発展を願う気持ちで変身をテーマにしたこのパーティの幕開けは、4月に上演した創作劇（30周年記念事業・表現活動）「ちりん・からん・ぼてっ」の一場面。あらかじめ募集をした“お姫さま・王子さまコンテスト”（12月2日～11日、県内7劇場合同企画例会「のはらひめ」にちなんでの企画）でも盛り上がりました。また、飛び入りサンタさん（佐賀市立図書館館長）のプレゼントもあり子どもたちも大喜びでした。あっという間に時間は過ぎ、子どもたちの元気な「ぼくらはみんな生きている」の大合唱で会を締めくくりました。「それにしても、恥ずかしいからイヤッと言っていた貴女、あなたの変身お見事でした。」さすが、げきしょう！

【鹿島子ども劇場】

塩田町・太良町・子ども劇場が協力

『気のいいイワンと不思議な小馬』



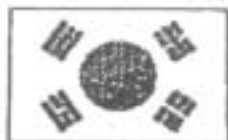
＜塩田町＞ 11月23日（金）

塩田中学校体育館に観客数750名。「塩田の子どもたちに生の舞台を観せたい」と必死に運動された役場女性職員さんの思いが議会まで通り、「少子化対策事業」として予算化されたのがきっかけでした。担当者が変わられても思いは継続され、今年で3年目を迎えました。役場の担当の方も回を重ねるごとに、益々積極的に取り組まれているのを感じました。

＜太良町＞ 11月25日（土）

多良小中学校体育館に観客数550名。塩田町の取り組みを知り、元子ども劇場の会員だった役場の職員さんから、「太良町の子どもたちにもいいものを観せたい」と、同じ「少子化対策事業」で実現の運びとなりました。初めての取り組みでしたが、実行委員会も毎回スムーズに行われ、当日の子どもたちは最後まで舞台に釘づけで、笑い感動で一杯でした。

塩田、太良町共「とても、おもしろかった。また観たい。」という感想ばかりでした。以前、子ども劇場の会員だった方が今でも舞台の感動を忘れずに地域の子供たちにも伝えたいとの思いが塩田町、太良町へと広がったことが大きな収穫でした。そして、このように、両町との関りが出来たのも、鹿島子ども劇場があってこそ。100名弱の会員数であっても何とか続けることの大切さを痛感しました。これからももっと劇場の輪が広がる事を願っています。



国際シンポジウム



子どもが演劇と出会うとき

第2回高学年祭典子どもの表現活動『ティーンズアートフェスティバル』で、子どもの世紀の幕をおとしました。21世紀を子どもの世紀に！という私達の課題が、子ども達の方で、確実に次の世代へ引き継ぐものができました。

さて、かごしまブロックでは、第14回祭典に向けて、また、これからの祭典や私達の運動をもっとひとまわりもふたまわりも大きくしていく上で、国際シンポジウムを計画しました。来年アシテジの世界大会が、アジアではじめて韓国であることもあり、韓国の金さんとまた、昨年鹿児島県からも参加したオーストラリアのフェスティバルをすすめているケイトさんをお呼びして、これからの子どもの演劇やフェスティバルの意義についてのシンポジウムを行いたいとおもっています。そこで、是非、毎年参加している祭典3劇団の代表とともに、このシンポジウムを成功させたいと思っています。

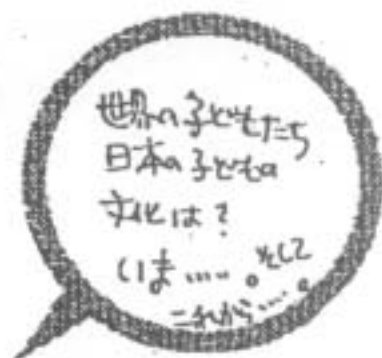
祭典にかかわるすべての会員、また地域で子どもの文化を担っている人たち、すべての子どもにかかわり、鹿児島の子どもの文化環境を良くしていきたいと願っているおとなたちに参加を呼びかけます。

とき:2002年1月15日(火)10:00~13:00

ところ:市民文化ホール4階ホール

参加費:会員600円(資料代100円込み)・一般1100円

韓国	金 南玉さん
オーストラリア	ケイト ファウラーさん
劇団風の子九州	林陽一さん
劇団道化	藤崎省吾さん
人形劇団クラルテ	松本則子さん



趣旨:子どもと芸術特に演劇(ドラマ)との出会いをどう創っていくのか?

また、子どもにとっての演劇の意味や生の舞台に触れる意味について日本や世界の演劇事情や環境をおとながどう創っていくのかについてこれからの都市部の祭典について討論や話を深めたい。

主催:鹿児島市子ども劇場連絡会

参加申し込みが始まる



「九州沖縄子どもと舞台芸術出合いの広場」

「杷木国際子ども芸術フェスティバル」

2002年3月21日—3月24日 福岡県杷木町

行かなきゃ！

周りの団体にも声を掛けて、みんなで行きましょう。

子どもの発表・舞台上演 30 作品・フォーラム・国際シンポジウム・交流のひろば・作品のプレゼンテーション・ワークショップ・大交流会・祝賀会・中国京劇公演・韓国国楽公演・・・

申し込み

第1次〆切 1月25日(金) 定員になり次第〆切ですのでお早めに！

第2次〆切 2月28日(木)

申し込み・お問い合わせ先

＜出合いの広場・フェスティバル事務局＞

〒838-1512 福岡県朝倉郡杷木町寒水 80-1 子ども未来館・はさ

TEL 0946-63-9120 FAX 0946-63-9121



本の紹介

「現代のまちづくり」

地域固有の創造的環境を
池上惇・小暮宣雄・大和滋 編
丸善ライブラリー780円+税
「創造都市」この理論は開かれた心を持ち、リスクを恐れず、地域社会に貢献する人々を支える市民・企業・研究機関などのネットワーク

「イベント創造の時代」

自治体と市民による
アートマネジメント
野田邦弘著
丸善ライブラリー760円+税
「文化」と「経済」は密接な関係を持っている。人真似ではない、自分の地域にあった文化を創り出すための手引き書

＜編集後記＞

杷木町の出合いの広場、F1では、中国・韓国の公演など今年は話題がいっぱいです。回りの団体もお誘いください。(F)

